

軽量型電動車イス

タウニイ

ジョイ

取扱説明書

安全で快適にご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みください。また、お読みになったあともいつでもよみ返せるように、大切に保管してください。

はじめに

このたびは、タウニジョイをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
一般的に車イスでの走行は、ご使用方法を誤りますと路面や交通状況によって、けがをされたり車イスが破損する恐れがあります。また障害の種類や程度によっては、単独での自走操作はたいへん危険です。
必ずお乗りいただく前に、お乗りになる方だけでなく、介助される方も本書をよくお読みになり、安全で快適にご使用ください。

本書の見方

正しい取り扱いに関する必要事項を下記シンボルマークで表示しています。



警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷に至る可能性が想定される場合を示しています。



注意

取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



要点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示しています。



この記号は、介助者が付き添う必要があることを示しています。

その他の注意事項

- ・ 本製品は、電動車イスとなります。それ以外の用途には使用しないでください。
- ・ 本製品は、道路交通法上では身体障害者用イスであり歩行者として扱われます。従って、歩行者としての交通ルールやマナーを守ってください。
- ・ 本製品には、安全に使用していただくため、「危険」、「警告」、「注意」の安全表示ラベルを添付しています。必ず守ってください。

目次

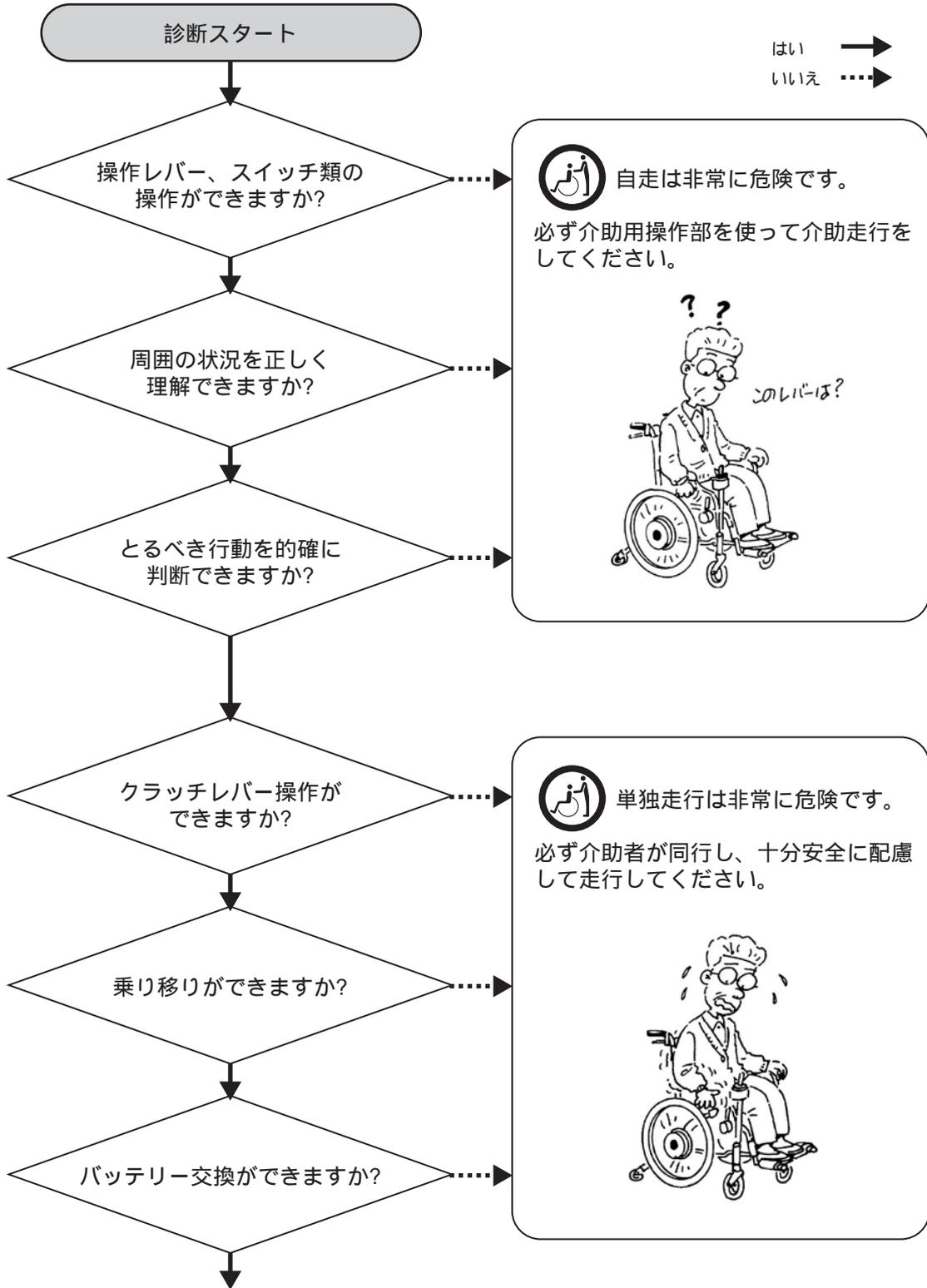
1. 安全にお使いいただくために	2
1.1 安全運転の手引き	3
1.1.1 平坦で広い安全な場所で.....	3
1.1.2 日常で使用する場所で.....	4
1.2 必ずお守りください	5
2. 各部の名称	9
3. バッテリーの充電方法	11
3.1 充電する前に	11
3.1.1 バッテリー各部の名称.....	11
3.1.2 バッテリーの特性.....	12
3.1.3 充電器について.....	13
3.1.4 充電場所を選びましょう.....	14
3.2 バッテリーを充電しましょう	15
3.2.1 充電に関する注意事項.....	15
3.2.2 急速充電を行う場合.....	16
3.2.3 リフレッシュ充電を行う場合.....	17
3.3 充電が終了したら.....	18
4. 操作方法（運転）	19
4.1 自走用操作部による操作方法	19
4.1.1 スタートする前に.....	19
4.1.2 スタートから停止まで.....	21
4.1.3 走行を終了したら.....	24
4.2 介助用操作部（オプション）による操作方法	25
5. 運搬および保管方法	27
5.1 運搬方法	27
5.2 保管方法	29
6. 点検および調整	30
6.1 車イス本体および車輪の点検	30
6.2 各部の調整	31
6.2.1 転倒防止バー.....	31
6.2.2 自走用操作部.....	31
6.2.3 介助用操作部.....	32
7. もしもこんな時は...	33
7.1 操作・取り扱いに関して	33
7.2 充電中の異常発生とランプ表示	35
仕様諸元、その他	36

1. 安全にお使いいただくために



警告

- ・お乗りになる方のお体の状態によっては、介助者が操作したり、介助者が必ず同行する必要があります。次のチャートをご参考の上、安全にご使用ください。
- ・介助者が介助用操作部を操作する場合も、「安全運転の手引き」に従って操作方法を身につけてください。



単独走行は可能ですが、安全のために慎重な運転を心掛けてください。
不慣れな場所では必ず介助者が同行し、十分安全に配慮して走行してください。

1.1 安全運転の手引き

安全にお使いいただくために、タウニジョイの機能特性、操作性を以下の順序にしたがって練習して身につけてください。まず、平坦で広い安全な場所で運転の練習をしましょう。その際には必ず介助者が付き添って、安全を確認しながら行ってください。

1.1.1 平坦で広い安全な場所で



前進・停止

- ・ まず、操作レバーに慣れましょう。
- ・ 低速側にして、操作レバーをゆっくりと動かしましょう。



後進

- ・ 後進時の特性を理解しましょう。
- ・ 後ろの安全を確認しましょう。



旋回

- ・ せまい場所で旋回できるようになりましょう。
- ・ 左右方向に回ってみましょう。



S字・クランク走行

- ・ 思いどおりのコースを通れるようになりましょう。
- ・ 速度と方向変換のタイミングを覚えましょう。



高速走行

- ・ 低速走行と高速走行の違いを覚えましょう。
- ・ 今までの練習を高速側で復習しましょう。



障害物回避

- ・ 回避動作ができるようになりましょう。
- ・ 障害物にぶつからないように停止してみましょう。



1.1.2 日常で使用する場所で



歩道

- ・ 歩行者や障害物にぶつからないようにしましょう。
- ・ 路面に応じた走行を覚えましょう。



横断歩道

- ・ 余裕をもって横断歩道を渡りましょう。
- ・ 車道 / 歩道の段差に注意しましょう。



段差乗り降り

- ・ 乗り降りの要領と限界を覚えましょう。
- ・ 手前でいったん停止し、慎重に進みましょう。



坂道

- ・ 上り下りの感触を覚えましょう。
- ・ 上り坂での再発進は慎重にしましょう。



自動ドア

- ・ 定位置でいったん停止する練習をしましょう。



1.2 必ずお守りください



警告

次のような場所や環境では危険が伴う場合があります。必ず介助者が同行して安全を確保してください。



・踏切を渡るとき

線路内にキャストを落とす危険があります。

・柵のない歩道

車道に転落する危険があります。

・プラットホーム

線路に転落する危険があります。

・側溝や下水溝などの網目状のふた

キャストを落とす危険があります。

・砂利道

タイヤが埋まり身動きできなくなる危険があります。

・車体が左右に大きく傾斜する場所

横転する危険があります。

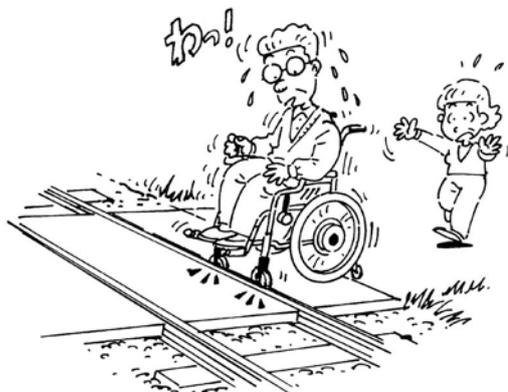
・夜間の走行

路面状態が確認できずに転落したり、第三者が認識できないために衝突する危険があります。

・リフトバスへの乗降

リフト上から転落する危険があります。

・そのほか、車イス走行に適さない場所



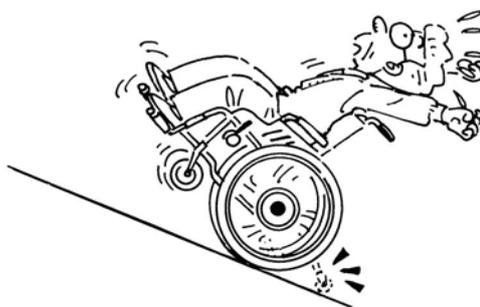
警告

転倒防止バーをはずしたり、格納したままであったり、「基準長さ」より短いままで走行すると転倒する場合があります。転倒防止バーを正しく設定していない状態で絶対に走行しないでください。



・「基準長さ」とは、キャストを上げたときに地面から5～10cmの高さで止まるように調整した、転倒防止バーの長さをいいます。

・大きな段差を介助で乗り越す際には、転倒防止バーをいったん格納する必要がありますが、そうした場合でも必ずすぐに元の位置に戻してください。



**警告**

大きな段差や深くぼみなどがある不整地では、車イスが後ろに大きく傾き転倒したり転落するおそれがあります。



- ・ 周りの状況を常にチェックし、安全確認を励行してください。
- ・ 必要がある場合は、必ず介助者が同行し安全確認を行ってください。

**警告**

まちがった手順で車イスに乗ったりまたは車イスから降りたりすると、不意に動き出して転倒したり転落する恐れがあります。必ず次の手順で乗り降りしてください。



- ・ 下が平らで滑りにくい場所を選ぶ。
- ・ 電源スイッチをオフにする。
- ・ クラッチレバーを電動側にする。
- ・ 車イスのフレームまたはひじかけ部に手をかけ、自走用操作部には手をかけない。
- ・ 自分ひとりで乗り降りができない場合は、必ず介助者が立ち会う。

**警告**

走行中にクラッチレバーを切り替えると、暴走、転倒、転落の恐れがあります。クラッチレバーの切り替えは必ず停止した状態で行ってください。

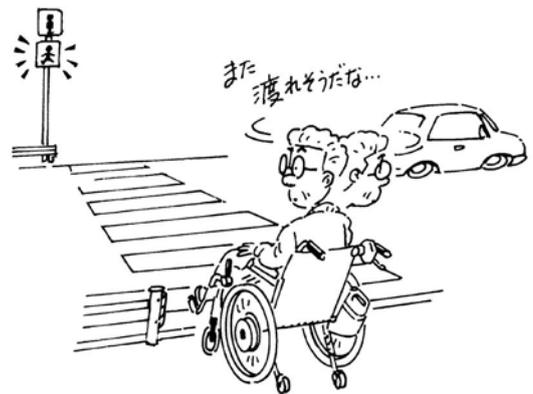
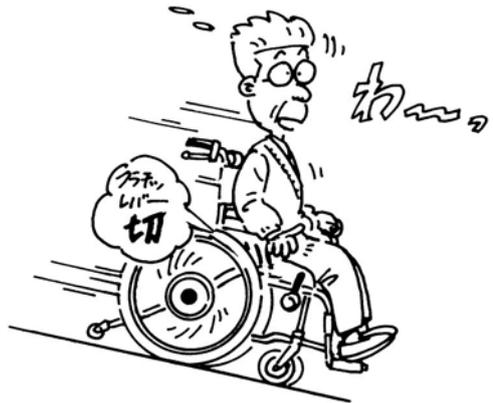
- ・ 電動走行中に「手動」に切り替えると、下り坂ではモーターによるブレーキの効果がなくなって、暴走する恐れがあります。
- ・ 手動走行中に「電動」に切り替えると、その際のショックで体が前方に投げ出されたり、機器を破損させる恐れがあります。

**警告**

道路の横断や路側帯の走行は、危険が伴う場合があります。不慣れた場所では、必ず介助者が同行してください。



- ・ 特に、信号機のない横断歩道では左右の交通に十分注意して渡ってください。
- ・ また、信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わる恐れがあります。そうした場所では、次の青になるまで待つ余裕をもって渡るようにしてください。
- ・ 狭い車道の脇を通るのはたいへん危険です。できるだけ安全な道すじを選んでください。



**警告**

タウニジョイのユニットや取付け部に改造を加えると、性能低下や安全性を損なうことがあります。絶対にしないでください。

調子がおかしいと思ったら、33ページの項目を調べた上で最寄りの取扱店に連絡してください。

**警告**

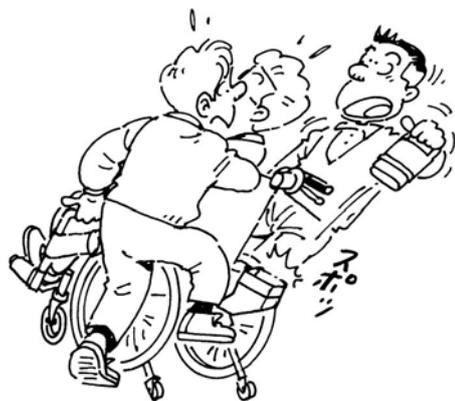
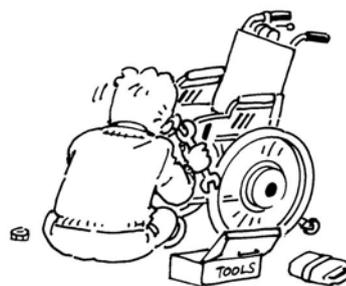
幼児や操作方法を知らない方が操作するのは、たいへん危険です。使用しないときには、必ずバッテリーをはずしておいてください。

複数の方が使用する場合には、全員が「安全運転の手引き」に準じて、正しい操作方法を覚えた上でご使用ください。

**警告**

車イスを持ち上げってもらうときは、絶対にバッテリー、ケーブル、自走操作部を持たせないでください。機器を破損させる恐れがあります。特に人が乗った状態では、転倒したり、転落する恐れがあります。下記のことを必ずお守りください。

- ・ 車輪が回らないように、クラッチレバーを電動側にしてください。
- ・ 持ち上げるときには、必ず車イスのフレーム部分を持ってください。



**警告**

タウンジョイのバッテリーは小型ですが、大きなエネルギーを蓄えています。使い方を誤ると、機器の損傷を招いたり、場合によってはやけどや火災を引き起こす恐れがあります。

- ・ バッテリーの充電は、必ず専用充電器(JWC-2)で行ってください。
- ・ バッテリーを使用しないときには必ず保護キャップを装着してください。
- ・ バッテリーの(+、 -)端子を針金等の金属で接続しないでください。
- ・ バッテリーに強い衝撃を与えたり、分解や改造をしないでください。
- ・ バッテリーを指定の機器以外のものに使用しないでください。
- ・ バッテリーを火や水の中に投入したり、加熱しないでください。
- ・ バッテリーのヒューズは、指定のものを使用してください。
- ・ 万一、バッテリーケースが破損した場合には、使用しないでください。
- ・ バッテリーは、幼児や第三者の手が届かないところに保管してください。

**警告**

バッテリー警告ランプが点滅してブザーが「ピピピッ」と鳴ったら、早めにバッテリーを交換してください。そのまま電動走行を続けてバッテリーが完全になくなると、バッテリー警告ランプが点滅してブザーが鳴り、車イスが停止します。道路横断中などに、身動きができなくなるといへん危険です。必ず次の手順で予備のバッテリーに交換してください。



- ・ 安全な場所に移動して、電源スイッチをオフにしてから、予備のバッテリーに交換してください。
- ・ 自分一人でバッテリー交換ができない場合は、必ず介助者が同行してください。

**警告**

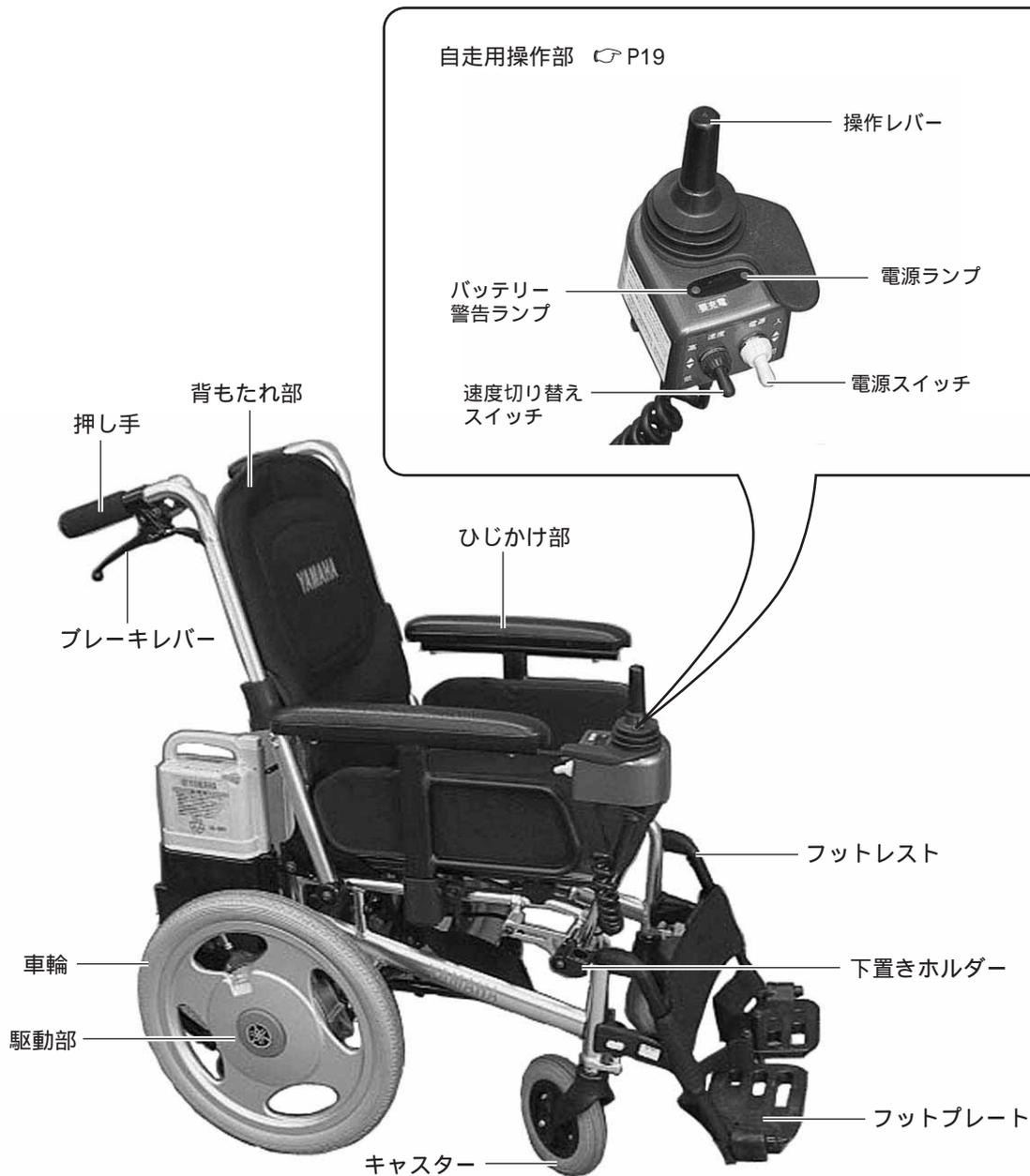
電動走行中に、突然バッテリー警告ランプが点灯してブザーが「ピー」と鳴って車イスが停止した場合はシステムが故障している恐れがあります。電動走行を中止してください。

34 ページの項目を調べた上で最寄りの取扱店に連絡してください。(バッテリー切れの際は、バッテリー警告ランプが点滅してブザーが「ピーッピーッピーッピーッ」と鳴って停止します。この場合は、システムは正常です。)

2. 各部の名称

ここでは、タウニジョイ各部の名称について説明します。各部の機能や使い方についてはそれぞれの詳細ページをご覧ください。

各部の名称1





要点

介助操作部に関しては、オプション（別売）設定となっています。

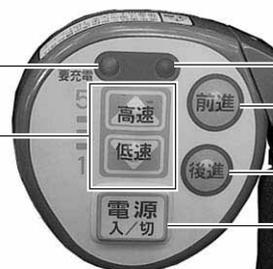
各部の名称2

介助用操作部(オプション)

☞ P25

バッテリー
警告ランプ

速度切り替え
スイッチ



電源ランプ

前進ボタン

後退ボタン

電源ボタン

押し手部
クランプレバー

リリースボタン

電動/手動切り替え部
(クラッチレバー)
☞ P21

バッテリー
☞ P11

転倒防止バー
格納用レバー

転倒防止バー
☞ P31



3. バッテリーの充電方法



警告

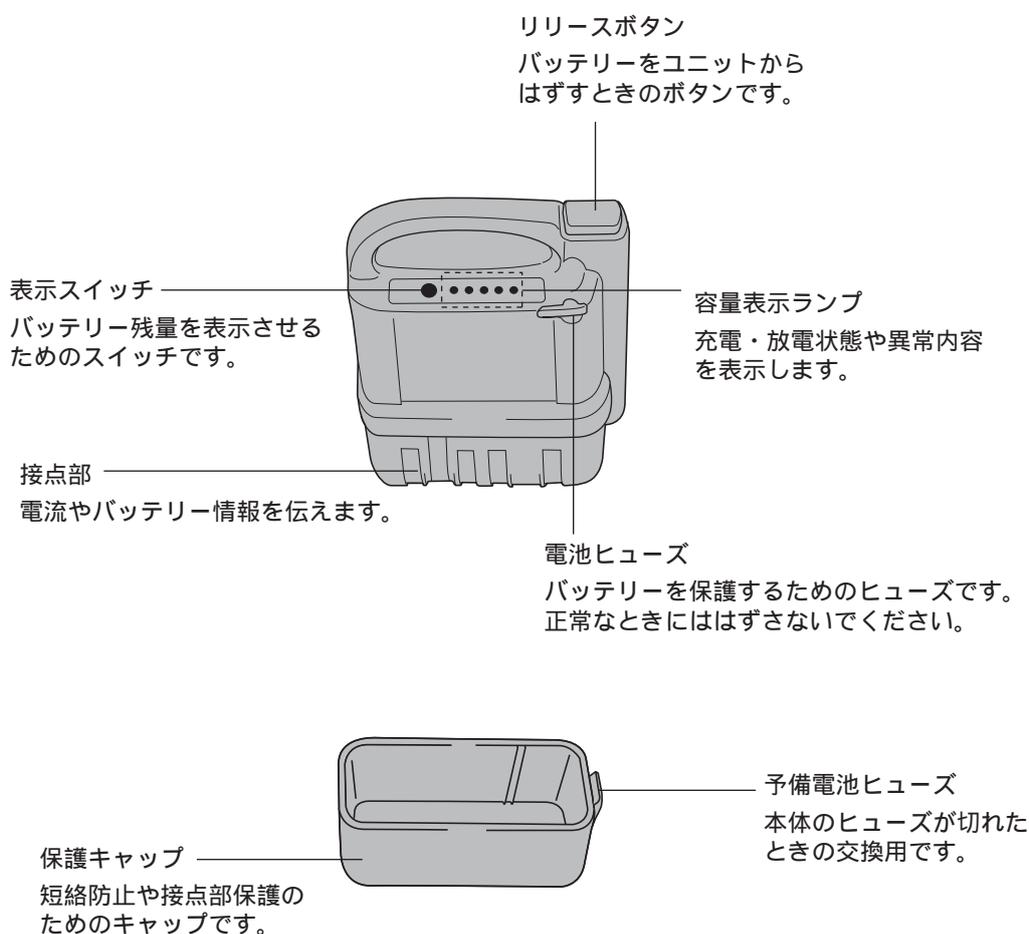
タウニジョイのバッテリーは小型ですが大きなエネルギーを蓄えています。使い方を誤ると機器の損傷を招いたり、場合によってはやけどや火災を引き起こしたりする恐れがあります。

3.1 充電する前に

専用バッテリー、専用充電器の特性や充電の基礎知識を覚えましょう。

3.1.1 バッテリー各部の名称

バッテリー各部の名称

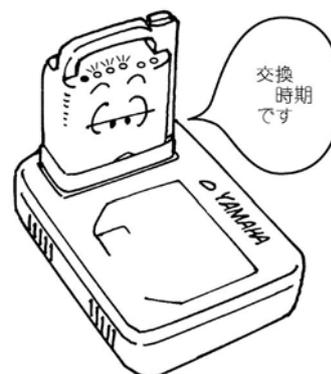


3.1.2 バッテリーの特性

特性 1

地形や温度、充電方法によっては、走行距離が短くなる場合があります。

- ・ 登坂走行や段差乗り越えなどの多いところでの走行は、平地に比べてバッテリーの消費電力が増えるため走行距離は短くなります。
- ・ 気温が低いときはバッテリーの働きが弱まり、走行距離が短くなります。
- ・ バッテリーを使い切らずに充電するといった方法を繰り返すと容量が低下し、走行距離は短くなります。(リフレッシュ充電を正しく行うことにより、この現象を防ぐことができます。)
- ・ 上記の現象は高温での充電環境で特に起こります。(10 ~ 30 が推奨環境温度です。)



特性 2

バッテリーは正しく使っても月日が経つと徐々に性能が衰えていきます(劣化)。

- ・ ニッケル水素バッテリーの寿命は使い方や使用環境により異なりますが、約1年間もしくは約300サイクルが目安です。(充電完了後の容量表示でも判断できます。)
- ・ 劣化が進むと容量表示が不安定になります。お買い求めの販売店等にご相談いただき、早めに新品バッテリーに交換されることをお勧めします。



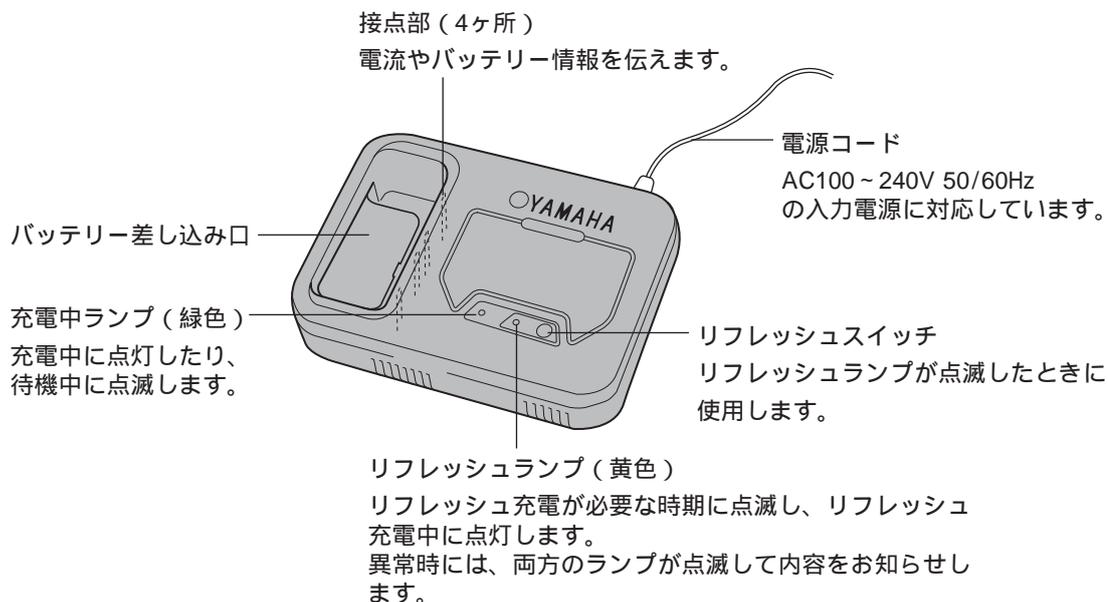
特性 3

バッテリーは使用しなくても自然に残量が減っていきます(自己放電)。

- ・ 長期間使わない場合でも、定期的に容量表示で残量を確認して適宜、再充電してください。長期保存時に充電できない場合は、自己放電を抑えるために、バッテリーのヒューズをはずしてください。(ヒューズをはずすと容量表示ランプが正しく表示しなくなりますが、再充電することで正常に戻ります。)
- ・ 自己放電は保存温度に影響を受け、特に高温で加速します。(0 ~ 30 が推奨保存温度です。)
- ・ タウニジョイに装着したまま保存すると、わずかですがバッテリーを消費します。長期間使わない場合は取り外して保存してください。

3.1.3 充電器について

充電器各部の名称



専用充電器の機能

1 リフレッシュ充電の時期をお知らせします。

ニッケル水素バッテリーは、完全に放電させてから充電すると、バッテリー性能を回復させて走行距離の低下を防ぐことができます。専用充電器は、バッテリーからリフレッシュ充電のタイミング情報を取り込み、表示ランプでお知らせします。

2 充電を温度情報で管理します。

充電時のバッテリー温度は、バッテリーの寿命に大きく影響します。専用充電器は、バッテリーから温度情報を取り込み、充電を管理します。

3 バッテリーや充電器の異常をお知らせします。

充電中に、バッテリーが充電器に異常が発生すると、表示ランプを点滅させて異常箇所をお知らせします。

4 世界各国の電圧に対応しています。

AC100～240V 50/60Hzの入力電源に対応しています。（ただし、電源プラグは各国形状にあった変換アダプターが必要です。）



3.1.4 充電場所を選びましょう

充電場所は次のようなところを選びましょう

屋内の涼しく風通しのよいところ

充電中の温度が 10 ~ 30 に保たれるところ

平坦で安定がよいところ



注意

充電する場合、次のようなところは避けてください。

例 1

直射日光が当たる場所やストーブのそばなど高温になるところや、寒冷地などでは、冬期に氷点下に気温が下がる
ところ

バッテリー温度が熱すぎたり冷たすぎたりすると充電が始まりません。



例 2

屋外で雨に濡れたり、洗面所など水がかかるところ

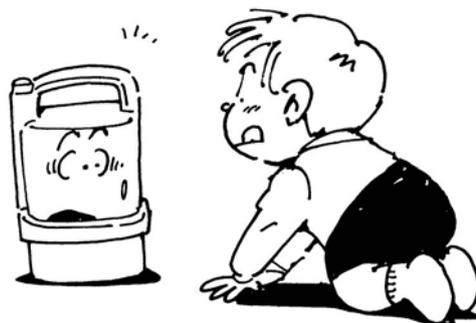
ショートしたり、感電する恐れがあります。



例 3

幼児やペットなどがいたずらしそうな
ところ

けがをしたり、機器を損傷させる恐れがあります。



注意

充電器の上や回りに物を置かないでください。充電中に充電器が発熱し、機能が低下することがあります。

3.2 バッテリーを充電しましょう

バッテリーを充電するには、短時間に充電を行う「急速充電」と、バッテリーを回復させながら充電を行う「リフレッシュ充電」の二つの方法があります。

- ・「急速充電」：約2～3時間で充電をします。
- ・「リフレッシュ充電」：約3～13時間で充電をします。



注意

バッテリーを長持ちさせ、走行距離の低下を防ぐために、「リフレッシュ充電」を知らせる表示ランプが点滅したら必ずリフレッシュ充電を行ってください。

3.2.1 充電に関する注意事項

充電を行う前に下記の注意事項をよく読んで正しく行ってください。

専用機器の使用



警告

バッテリーの充電は、専用充電器（JWC-2）以外で行わないでください。火災や機器損傷の原因になることがあります。

使用周囲温度



注意

バッテリー保護のため、バッテリー温度が0～40の範囲外の場合は、充電を開始しません。適温になるまで充電中ランプ（緑色）が点滅します。バッテリー温度が適温になると、同ランプが点灯して自動的に充電が始まります。（待機時間は条件により異なりますが、1～2時間かかります。）また、夏の暑い日中に走行した直後のバッテリーは、高温になりますので充電の前に適温まで自然に冷ましてください。

取り扱い



警告

バッテリーに衝撃を与えたり、落とさないでください。故障の原因になります。



注意

- ・バッテリー差し込み口には、手や物を入れないでください。
- ・バッテリー差し込み口に異物がないか確認してください。もしあれば取り除いてから、バッテリーを差し込んでください。
- ・充電器の接点を変形させたり、傷つけたりしないでください。



3.2.2 急速充電を行う場合

Step 1 電源コードを差し込みます。

電源コードを充電器側とコンセント側にプラグ部分を持って、差し込んでください。

Step 2 バッテリーを充電器に装着します。

バッテリーを充電器のバッテリー差し込み口に突き当たるまでしっかりと差し込んでください。バッテリー温度が適温であれば、充電中ランプ（緑色）が点灯して充電が始まります。

Step 3 容量表示ランプを確認します。

充電中は、バッテリーの容量表示ランプが順次点灯し、充電の進み具合を表示します。約2～3時間で充電が完了し、自動的に充電器の充電中ランプ（緑色）とバッテリーの容量表示ランプが消えていることを確認してください。

Step 4 充電状態を確認します。

充電完了状態でバッテリーの表示スイッチを押してランプの点灯状態を確認してください。



注意

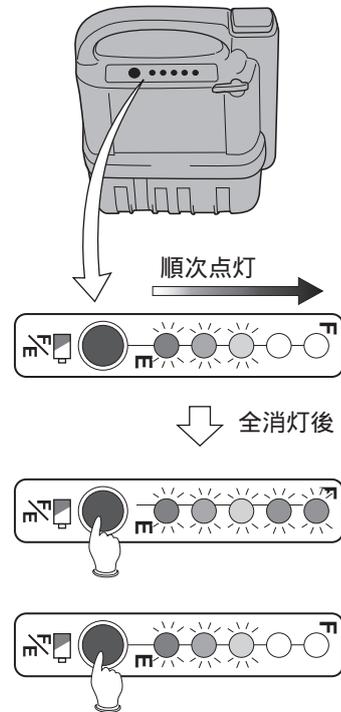
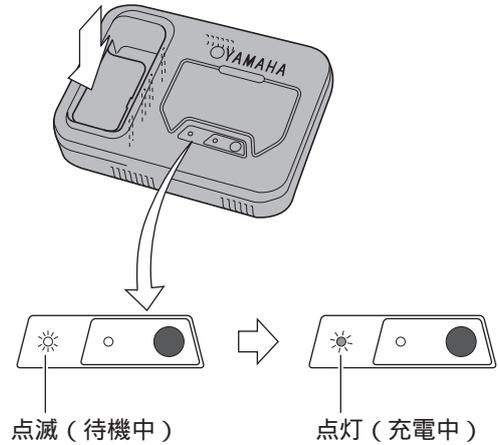
バッテリーの劣化が進むにつれて充電が完了したときでも、5番目、4番目・・・と順次、容量表示ランプが点灯なくなってきます。充電完了状態で5番目と4番目のふたつのランプが点灯しなくなった場合をバッテリー交換の目安としてください。



注意

充電済みのバッテリーをさらに充電しないでください。温度が上昇してバッテリーの寿命を短くします。

バッテリーを差し込む



3.2.3 リフレッシュ充電を行う場合

Step 1 電源コードを差し込みます。

電源コードを充電器側とコンセント側にプラグ部分を持って、差し込んでください。

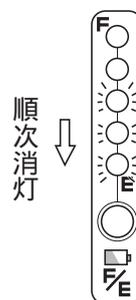
Step 2 バッテリーを充電器に装着します。

バッテリーを充電器のバッテリー差し込み口に突き当たるまでしっかりと差し込んでください。リフレッシュ充電が必要になると、リフレッシュランプ（黄色）が点滅しリフレッシュ充電をお知らせします。



Step 3 リフレッシュスイッチを押します。

リフレッシュランプが点滅している間（約 10 秒）に、リフレッシュスイッチを押してください。リフレッシュランプが点灯して残ったバッテリーの放電が始まります。



Step 4 充電状態を確認します。

放電中は、バッテリーの容量表示ランプが順次消えて放電の進み具合をお知らせします。放電が完了すると、自動的に充電が始まります。充電完了までの手順は、急速充電と同じです。



注意

「リフレッシュ充電」のお知らせを無視して「急速充電」を続けると、バッテリーの容量表示が不正確になってきます。「リフレッシュ充電」のお知らせが始まってから、3回目までの充電の間に必ず「リフレッシュ充電」を実施してください。



要点

- ・「リフレッシュ充電」は通常、3 ~ 13 時間かかります。（高い温度の場所では、さらに時間がかかる場合があります。）
- ・就寝前に「リフレッシュ充電」を開始し、翌朝まで放置すると効率的に充電できます。
- ・リフレッシュのお知らせがあった場合でも、短時間に充電を完了したいときはそのまま放置すれば約 10 秒後に「急速充電」が始まります。



3.3 充電が終了したら

Step 1 バッテリーを取り外します。

充電が終了したら充電済みのバッテリーを取り外します。

Step 2 保護キャップを装着します。

保管する場合は、取り外したバッテリーに保護キャップを装着してください。



警告

取り外したバッテリーには必ず保護キャップを装着して保管して下さい。接点部が露出しているとショートすることがあります。



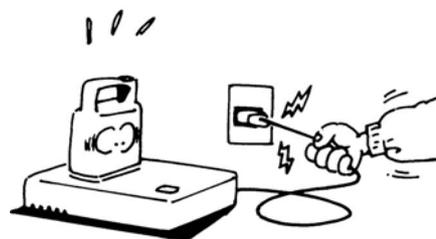
Step 3 プラグを引き抜きます。

電源コードのプラグ部分を持って、コンセントから引き抜いてください。



注意

電源コードを引っ張って抜かないでください。断線の原因になります。



バッテリーの長期保管について

バッテリーは自己放電によりバッテリーの容量が減ります。長期間使用しないで保管する場合は、バッテリーを充電して高温になる場所を避けて保管してください。

バッテリーのリサイクルについて

寿命がきて使えなくなったバッテリーは、リサイクル可能な貴重な資源です。リサイクルの際は、取扱店までお申し付けください。



Ni-MH

4. 操作方法（運転）



警告

タウニジジョイでの走行は、ご使用方法を誤りますと、路面や交通状況によって、けがをされたり車イスが破損する恐れがあります。「1. 安全にお使いいただくために」を先読んで、よくご理解ください。

4.1 自走用操作部による操作方法

4.1.1 スタートする前に

Step 1 バッテリー残量を確認します。

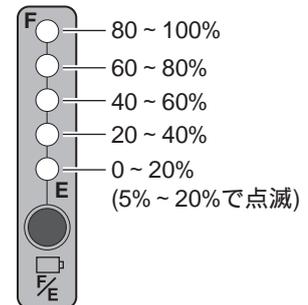
表示スイッチを押して、バッテリー残量を容量表示ランプで確認します。表示スイッチを押すと、数秒間ランプが点灯します。



要点

- ・バッテリー残量は5段階（新品時）で表示されます。
- ・バッテリーの劣化が進むと、充電完了時でも容量表示ランプの点灯が少なくなり走行距離が短くなります。

新品時の容量目安



Step 2 転倒防止バーを確認します。

転倒防止バーが正しく設定されているか確認します。設定方法については「6.2 各部の調整」をご覧ください。



警告

転倒防止バーをはずしたり、格納したままであったり、「基準長さ」より短いままで走行すると転倒する場合があります。転倒防止バーを正しく設定していない状態で絶対に走行しないでください。



Step 3 車イスに乗り移ります。

車イスに（車イスから）乗り移ったり、テーブルにつく場合、自走用操作部を取り外して下置きホルダーに格納してください。



警告

まちがった手順で車イスに乗ったりまたは車イスから降りたりすると、不意に動き出して転倒したり転落する恐れがあります。必ず正しい手順で乗り降りしてください。



Step4 バッテリーを装着します。

電源スイッチがOFFになっていることを確認して、「カチッ」と止まるまで差し込んでバッテリーを装着してください。



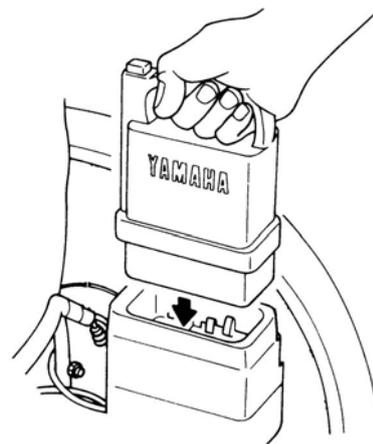
警告

バッテリーに強い衝撃を与えたり、落とさないでください。故障の原因になります。



注意

- ・バッテリー差し込み口には、手や物を入れないでください。
- ・バッテリー差し込み口に異物がないか確認してください。もしあれば取り除いてから、バッテリーを差し込んでください。
- ・接点を変形させたり、傷つけたりしないでください。



Step5 車イスから転落しないようにしっかりと座ります。



注意

シートベルトを常用している方は、忘れずに装着してください。

4.1.2 スタートから停止まで

Step 1 クラッチレバーを確認します。

クラッチレバーを下側に倒して電動側にしてください。走行中は、クラッチレバーを絶対に切り替えないでください。



警告

走行中にクラッチレバーを切り替えると、暴走、転倒、転落の恐れがあります。クラッチレバーの切り替えは必ず停止した状態で行ってください。



Step 2 電源スイッチをオンにします。

「ピッ」という音とともにいったん緑と赤いランプが両方点灯します。約 1 秒後赤いランプが点滅回数でバッテリー残量を表示します。その後赤いランプが消え、緑のランプだけが点灯し、走行可能となります。



注意

電動走行中は、足をフットレストからはずさないでください。足が地面に引っ掛かるとけがををする恐れがあります。



要点

- ・電源スイッチをオンにするときに操作レバーを倒していると、安全装置が働いて走行できません。操作レバーを元に戻してから電源スイッチを入れ直してください。
- ・介助用操作部（別売）の電源がオンになっていると、自走用操作部の電源がオンになりません。いったん両方の電源を OFF にしたあとで、自走用操作部の電源をオンにしてください。
- ・バッテリー警告ランプでのバッテリー残量表示は 5 段階です。新品時にフル充電の状態ですら 5 回点滅し、以降電力消費や劣化にともない点滅回数が減ります。またバッテリー本体の残量表示と連動しています。
- ・バッテリー警告ランプが点滅または点灯している場合は、バッテリー切れです。バッテリーを交換してから走行してください。



注意

充電済みのバッテリーに交換しても、すぐにバッテリー警告ランプが赤く点灯する場合はシステムが故障している可能性があり、走行できません。最寄りの取扱店に連絡してください。



Step3 速度切り替えを行います。

速度切替スイッチを最初は低速側にします。走行に慣れてから高速側に切り替えましょう。

Step4 操作レバーを移動したい方向に倒します。

走行する場所によっては、危険を伴うことがあります。慎重に運転しましょう。



要点

具体的な操作方法は、前述の「1.1 安全運転の手引き」に従ってください。



警告

次のような場所や環境では危険が伴う場合があります。必ず介助者が同行して安全を確保してください。



- ・踏切を渡るとき
- ・柵のない歩道
- ・プラットホーム
- ・側溝や下水溝などの網目状のふた
- ・砂利道
- ・車体が左右に大きく傾斜する場所
- ・夜間の走行
- ・リフトバスへの乗降
- ・そのほか、車イス走行に適さない場所

Step5 バッテリーの状態を確認します。

走行中は、操作部のバッテリー警告ランプやブザーでバッテリーの状態を確認してください。

Step6 停止します。

停止する場合は、操作レバーを中立位置に戻します。手を放すとばねの力で自動的に戻ります。



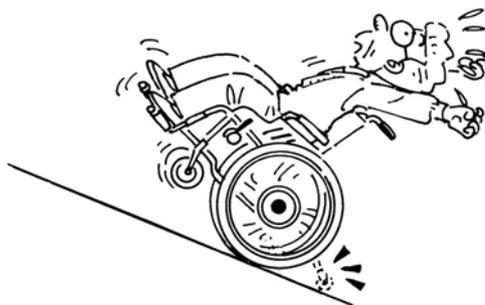
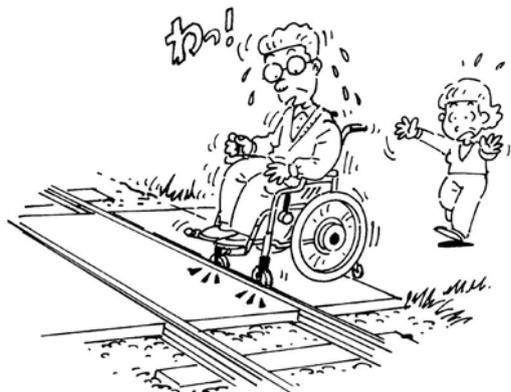
注意

上り坂、段差乗り越し、背もたれ部に荷物を積んでいるときなどは、キャスターが浮いて後ろに転倒する恐れがあります。



警告

転倒防止バーをはずしたり、格納したままであったり、「基準長さ」より短いままで走行すると転倒する場合があります。転倒防止バーを正しく設定していない状態で絶対に走行しないでください。





警告

大きな段差や深くぼみなどがある不整地では、車イスが大きく後ろに傾き転倒したり転落するおそれがあります。



注意

大きな段差を乗り越そうとしたり、溝にはまったりして身動きできなくなった場合、むやみやたらにモーターを回し続けないでください。モーターに大きな負荷がかかり、エラーが発生するおそれがあります。身動きできなくなったら、第三者の力を借りて安全な場所に移動してください。



要点

- ・体の重心位置を前に移すと後へ転倒しにくくなります。
- ・体の重心位置を移すのが困難な方は必ず介助者がついてください。



警告

バッテリー警告ランプが点滅してブザーが「ピピピピ」と鳴ったら、早めにバッテリーを交換してください。そのまま電動走行を続けてバッテリーが完全になくなると、バッテリー警告ランプが点滅してブザーが鳴り、車イスが停止します。道路横断中などに、身動きができなくなるとたいへん危険です。必ず正しい手順で予備のバッテリーに交換してください。

バッテリーを交換する場合

バッテリーを取り外すときは、電源スイッチを OFF にして、リリースボタンを押しながら上にまっすぐ引き抜きます。次に、予備のバッテリーを「カチッ」と止るまで差し込みます。



警告

取り外したバッテリーには必ず保護キャップを装着して保管して下さい。接点部が露出しているとショートすることがあります。

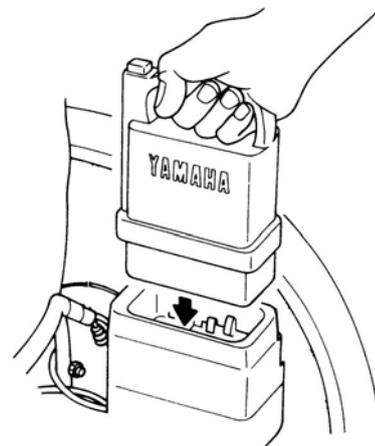


注意

本体には、パーキングブレーキがついていません。傾斜した場所に駐停車する場合は、クラッチレバーが電動側「入」になっている状態で操作レバーが中立位置であれば、電源に関係なく自動的にブレーキがかかります。

オートパワーオフ機能について

操作レバーを 10 分間、何も操作しない場合は、バッテリーの節約のために自動的に電源が切れます（オートパワーオフ機能）。再度電源をオンにしたいときには一度電源を OFF にしてから入れ直してください。



**警告**

車イスを持ち上げてもらうときは、絶対にバッテリー、ケーブル、自走用操作部を持たせないでください。機器を破損させる恐れがあります。特に人が乗った状態では、転倒したり、転落する恐れがあります。必ず正しい手順で持ち上げてください。

電磁波について

携帯電話や無線通信機器は、使用する際に電磁波を発生します。これらの機器を使用する場合は、が電磁波の影響を受けないように下記の点ご注意ください。

**注意**

- ・携帯電話などを使用する場合は、安全な場所に停止しての電源を OFF にしてお使いください。
- ・電動走行中は携帯電話などの電源を OFF にしておいてください。

4.1.3 走行を終了したら

Step 1 車イスに乗り移る要領に準じて、車イスからベッドなどに乗り移ります。

**警告**

誤った手順で車イスに乗ったりまたは車イスから降りたりすると、不意に動き出して転倒したり転落する恐れがあります。必ず正しい手順で乗り降りしてください。

Step 2 電源スイッチを OFF します。

車イスを使用しないときは、電源スイッチを OFF にして安全なところに保管してください。

**警告**

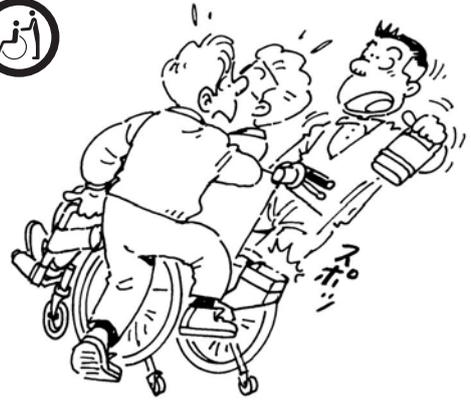
幼児や操作方法を知らない方が操作するのは、大変危険です。使用しないときには、第三者が手を触れない場所に置かバッテリーをはずしておいてください。

**要点**

電源を OFF にした時、緑のランプが点滅しブザーが「ピー」と鳴ったら、介助用操作部の電源がオンしています。両方とも OFF にしてください。

Step 3 バッテリーを充電しておきます。

外したバッテリーは、次回の走行までに充電しておいてください。



4.2 介助用操作部（オプション）による操作方法



警告

タウニジョイでの走行は、ご使用方法を誤りますと、路面や交通状況によって、けがをされたり車イスが破損する恐れがあります。介助する方も、「1. 安全にお使いいただくために」を先に読んで、よくご理解ください。

Step 1 スタート前の確認をします。

バッテリー残量、転倒防止バーなどの確認およびクラッチレバー操作は、前述の「4.1 自走用操作部による操作方法」に準じてください。

Step 2 電源ボタンをオンにします。

- ・「ピッ」という音とともにいったん緑と赤のランプが両方点灯します。
- ・約1秒後、緑のランプの点滅回数で速度レベルを表示します。（2回繰り返します。）
- ・緑のランプは点灯に変わり走行可能となります。

電源のON/OFFについて

- ・自走用操作部の電源がオンになっていると、介助用操作部の電源がオンになりません。いったん両方の電源をオフにしたあとで、介助用操作部の電源をオンにしてください。
- ・電源ボタンをオンにすると、バッテリーの容量表示ランプが数秒間点灯し、バッテリー残量をお知らせします。
- ・バッテリー警告ランプが点滅したまま、または点灯している場合は、バッテリー切れです。
- ・充電済みのバッテリーに交換しても、すぐにバッテリー警告ランプが赤く点灯する場合はシステムが故障している可能性があります。走行できません。最寄りの取扱店に連絡してください。
- ・電源ランプでの速度レベル表示は5段階です。速度レベル1では1回点滅し速度レベル5では5回点滅します。

Step 3 速度を設定します。

速度ボタンで最初は速度レベル1に設定します。走行に慣れてから、速度レベルは徐々に切り替えてください。

Step 4 クラッチを確認します。

クラッチが電動側に入っていることを確認してください。



4

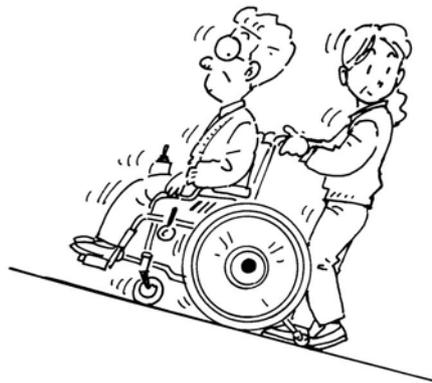


Step 5 発進します。

前進・後進は、介助用操作部の操作ボタンを押して行います。進行を方向を変えたり、旋回したりするときは、操作ボタンを押しながら押し手で操作してください。



注意
急な坂道を前進で下ると前のめりになる恐れがあります。後進で下ってください。

**Step 6** 停止します。

停止する場合は操作ボタンから手を放します。手で介助中にブレーキをかける場合は、ブレーキレバーを握ってください。



注意
本体には、パーキングブレーキがついていません。傾斜した場所に駐停車する場合は、必ずクラッチを電動側にして電磁ブレーキをかけてください。

段差を乗り越す場合

段差乗り越しの際は、転倒防止バーを静かに足で踏みながら、押し手を下に押してキャスターを上げてください。

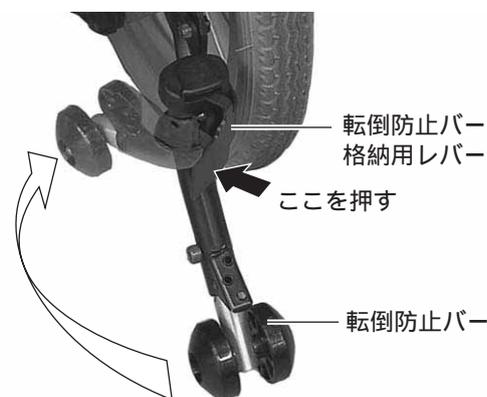
大きな段差を乗り越す際には、レバーを内側に押しながら転倒防止バーを内側に回転させ格納します。乗り越後は、必ず直ちに元の位置に戻してください。



警告
転倒防止バーをはずしたり、格納したままであったり、「基準長さ」より短いままで走行すると転倒する場合があります。転倒防止バーを正しく設定していない状態で絶対に走行しないでください。



要点
走行場所による危険の有無、後ろへの転倒の恐れ、バッテリー状態の確認、バッテリー交換、階段などでの介助方法などは、前述の「4.1 自走用操作部による操作方法」に準じてください。

**Step 7** 走行を終了します。

車イスからの乗り移り、車イスを使用しないときの注意は、前述の「4.1 自走用操作部による操作方法」に準じてください。

5. 運搬および保管方法

5.1 運搬方法

車などに積んで運搬するときには、次の手順で行ってください。

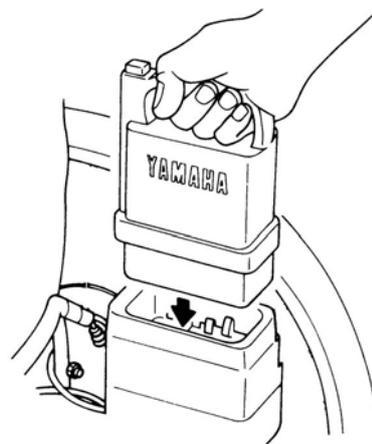
Step 1 バッテリーを外します。

運搬中に不用意に電源が入らないようにバッテリーを外してください。



警告

取り外したバッテリーには必ず保護キャップを装着して保管して下さい。接点部が露出しているとショートすることがあります。



Step 2 車輪をロックします。

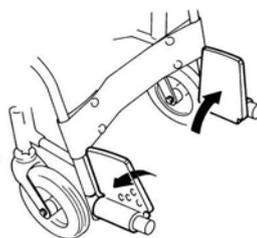
車輪が回らないように、クラッチを電動側に設定してください。



Step 3 車イスを折りたたみます。

配線などははさまないように、次の手順で車イスを折りたたんでください。

1. フットプレートを矢印方向に回転させて折り曲げます。
2. 座シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げて、次に押し手を合わせてたたみます。
3. 押し手部クラムプレバーを解除して、押し手を後方下側へ押し込みます。押し込んだら、安全のためクラムしておきます。



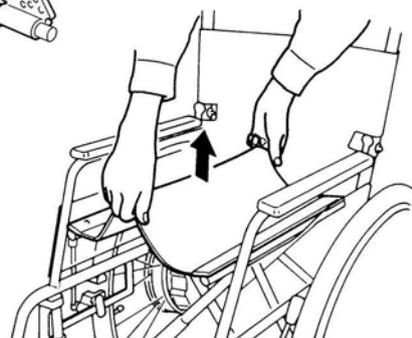
Step 4 車イスを積み込みます。

車イスのフレーム部分を両手で持って、静かに積み込んでください。



警告

車イスを持ち上げるときに、絶対にバッテリー、ケーブル、自走用操作部を持たないでください。機器を破損させる恐れがあります。



運搬時の注意事項

運搬時は下記の点に注意してください。

注意
車イスをさかさまにしないでください。自走用操作部は簡単に取り外せる構造になっているので、さかさまにした場合、落下して破損する場合があります。

注意
精密電子部品が使用されていますので、強いショックを与えないでください。

注意
運搬中は、ガタガタ揺れないように車イスの下にクッションとなるようなものを敷いたり、動かないように固定してください。



運搬時の注意事項

運搬のあと、車イスを使用するときは、次の手順で抜けてください。

Step 1 車イスを抜けます。

1. 車イスの押し手を矢印の方向へ持ち上げ、押し手を左右に抜けてください。
2. 片方の押し手をもち、座パイプ部を下に押し下げてください。

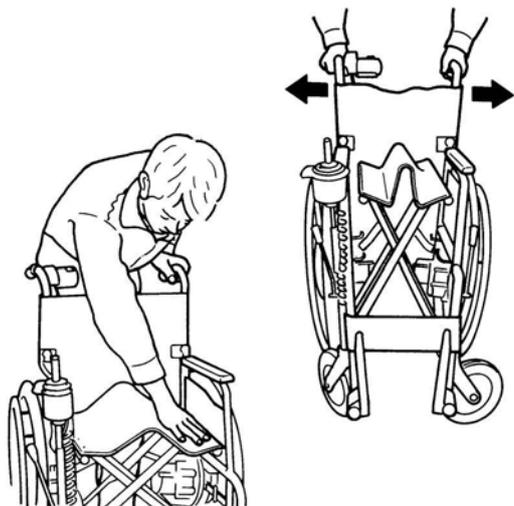
Step 2 押し手を元に戻します。

押し手部クランプレバーを解除して、押し手を上方向いっぱい引いた後クランプしてください。

Step 3 フットプレートをセットします。

フットプレートを内側方向に倒してください。

注意
座パイプの横や下へ手や指を入れないでください。



5.2 保管方法

保管時には、下記の点に注意してください。

1. バッテリーを必ず外して保管してください。

- ・ 幼児や操作方法を知らない方が操作するのは、たいへん危険です。使用しないときには、必ずバッテリーをはずしておいてください。
- ・ 取り外したバッテリーには必ず保護キャップを装着して保管してください。接点部が露出しているとショートすることがあります。

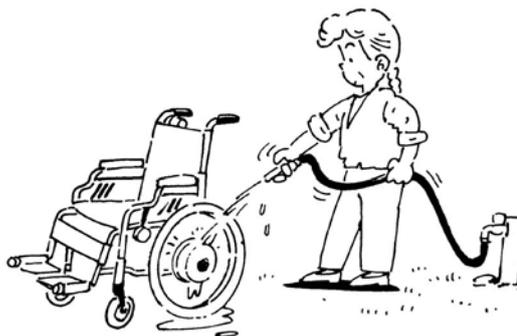


2. 雨上がりや水滴等には注意してください。

雨上がりの濡れた路面を走行したあとなどは、水滴等がついているので乾いたタオルなどでよくふき取ってください。そのまま放置すると錆びの原因になります。

3. 泥や汚れを落としてください。

- ・ 泥や汚れを落とすときは、強くしぼったタオルなどで拭いてください。
- ・ 直接ホースなどで水をかけると、電子部品が故障する原因になります。絶対にしないでください。



4. 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。

故障の原因になりますので、雨に濡れたり、直射日光が当たったり、湿気の高いところには保管しないでください。

5. 高温になるところを避けて保管してください。

炎天下では、車の中に長時間放置しないでください。



6. 点検および調整

6.1 車イス本体および車輪の点検



警告

車イス本体や車輪に異常がある状態で使用し続けると、走行中に突然車イスが破損し、転倒、転落の恐れがあります。

常時、車イス各部の状態を確認し、異常に気が付いたら速やかに取扱店にて点検・整備を行ってください。

- ・フレームの亀裂
- ・各部締付のゆるみ
- ・ブレーキの効き具合
- ・キャスターの変形
- ・タイヤの摩耗など



各部の点検



6.2 各部の調整

6.2.1 転倒防止バー



警告

転倒防止バーをはずしたり、格納したままであったり、「基準長さ」より短いままで走行すると転倒する場合があります。転倒防止バーを正しく設定していない状態で絶対に走行しないでください。

Step 1 固定ボルトを外します。

6角レンチを使って、転倒防止バーの固定ボルトを外してください。

Step 2 「基準長さ」に設定します。

バーをスライドさせて「基準長さ」(長くなる方)にあわせてください。

Step 3 固定ボルトを取り付けます。

6角レンチを使って、転倒防止バーの固定ボルトを締め付けてください。



6.2.2 自走用操作部

Step 1 前後位置を決定します。

下側の角度調整ボルトで操作部の前後位置を決定してください。

Step 2 高さ方向を調整をします。

操作部ロッド上の上下調整ボルトをゆるめ、高さの調整をして締め付けてください。

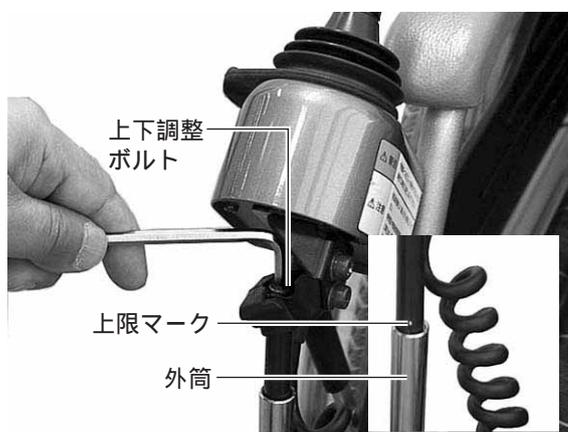


注意

ロッド上の上限マークが外筒より飛び出ると十分な固定ができません。上限マークが隠れる範囲で調整します。

Step 3 操作部を水平に固定します。

上側の角度調整ボルトで操作部を水平に固定してください。



6.2.3 介助用操作部

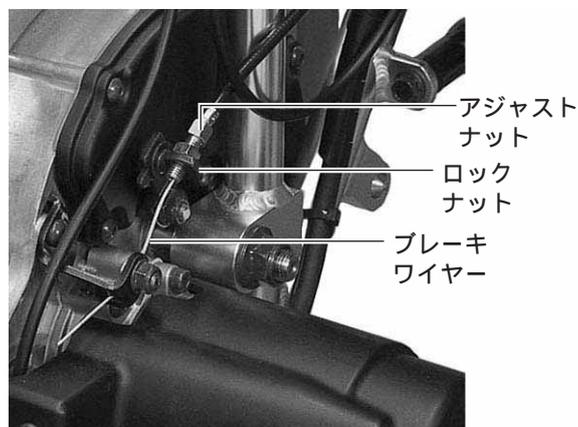
介助用操作部の位置やブレーキレバーの遊びを、以下の手順で調整してください。

Step 1 介助用操作部の角度調整を行います。

介助用操作部の角度調整は、角度調整ボルトを緩めて行ってください。

Step 2 ブレーキレバーを調整します。(左右)

1. ブレーキワイヤーのロックナット(車輪側)を緩めます。
2. アジャストナットを回し、任意の位置で固定します。
3. ロックナットを固定します。



Step 3 Step 2 を繰り返して適正な位置をさがします。

ブレーキレバーの遊びが約 10mm 程度になるように調整してください。



要点

左右のブレーキの効き具合が均等になるように調整してください。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧が適正でないとパンクや乗り心地をそこなう原因になります。常に適正值に保つように心掛けてください。

車輪標準空気圧 : 300 kPa (3.0 kg/cm²)

7. もしもこんな時は...

タウンイジョイの調子がおかしいと思ったら、修理を依頼する前にまず以下の項目を調べてみましょう。

7.1 操作・取り扱いに関して

電動・手動・介助走行中

こんなとき	ここを確認	こうしてください
走り出さない	クラッチレバーが切れていませんか。	クラッチレバーを入れてください。
	バッテリーが切れていませんか。	バッテリーを充電するか交換してください。
	バッテリーが正しく差し込まれていますか。	バッテリーを正しく差し込んでください。
	自走のときに介助用操作部の電源が入っていませんか。	いったん両方の電源をオフにして、自走用操作部の電源をオンにします。
	介助のときに自走用操作部の電源が入っていませんか。	いったん両方の電源をオフにして、介助用操作部の電源をオンにします。
	操作レバーを倒したまま電源をオンにしていますか。	電源操作部をやり直してください。直らない場合は取扱店にご連絡してください。
	オートパワーオフで自動的に電源が切れたままになっていませんか。	一度電源をオフしてから入れ直します。
操縦できない	操作部が作動していますか。	取扱店にご連絡してください。
	片側のみ駆動していませんか。	取扱店にご連絡してください。
異常な振動がある	車輪取り付け部がゆるんでいませんか。	再締め付けをしてください。
	駆動部から異音がしませんか。	取扱店にご連絡してください。
走行距離が短い	バッテリーが完全充電されていますか。	バッテリーをリフレッシュ充電するか交換してください。
スピードが不足している	速度切替スイッチが低速モードになっていませんか。	高速モードに切り替えてください。
手動操作が重い	クラッチレバーが入っていませんか。	クラッチレバーを切ってください。
	タイヤの空気圧が低くありませんか。	タイヤの空気を入れてください。
介助用のブレーキが効かない	ブレーキケーブルの遊びが多くありませんか。	ケーブルを調整してください。

充電中

こんなとき	ここを確認	こうしてください
充電しない	電源コードが接続されていますか。	接続してください。
	バッテリーのヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
待機中が続く	バッテリーの温度が適温ですか。	充電の適温になるのを待ってください。
	充電器周りの温度が適温ですか。	充電適温場所で充電してください。
充電がすぐ終わる	満充電されていませんか。	再充電して同じであれば充電完了です。
充電が長く続く	充電器周りの温度が適温ですか。	適温になるまで待ってください。
充電器が異常に高温になる		取扱店に連絡してください。
異音・異臭がする		取扱店に連絡してください。

7.2 充電中の異常発生とランプ表示

充電中にバッテリーが充電器に異常が発生すると、充電器の充電中ランプ、リフレッシュランプおよびバッテリーの容量表示ランプが点滅して異常をお知らせします。以下の表を参考にしてください。



警告

充電器は非分解の構造です。充電器の異常が発生した場合は、取扱店にご相談ください。

バッテリー/充電器	表示ランプの状態	こうしてください
	1・3・5番目が点滅する。	バッテリーの温度が充電に適していません。バッテリーの温度が適温になるまで待って充電を始めてください。
	4番目のみが点滅する。	バッテリー内部の異常です。新しいバッテリーに交換してください。
	緑・黄が同時点滅する。	バッテリー内部の異常です。新しいバッテリーに交換してください。
	緑・黄が早く交互に点滅する。	<p>接点不良の恐れがあります。バッテリー側、充電器側の接点部を点検して、ゴミづまり等があったら取り除いてください。また、接点部に汚れがある場合は、接点を変形させたり、傷つけたりしないように注意して乾いた布で汚れをふき取ってください。</p> <p>バッテリーのヒューズが切れている恐れがあります。バッテリーの側面にあるヒューズのフタをあげてヒューズを点検し、切れていれば保護キャップ上の予備ヒューズに交換してください。(下記警告を参照してください。)</p>
	緑・緑・黄が順次周期的に点滅する。	充電器に異常があります。新しい充電器に交換してください。
	緑・緑・緑・黄が順次周期的に点滅する。	充電器に異常があります。新しい充電器に交換してください。



警告

火災などの原因になる恐れがあるので、バッテリーのヒューズは必ず指定のものを使用してください(20A ブレードヒューズ)。決して針金等で代用しないでください。

仕様諸元、その他

タウニジョイ本体

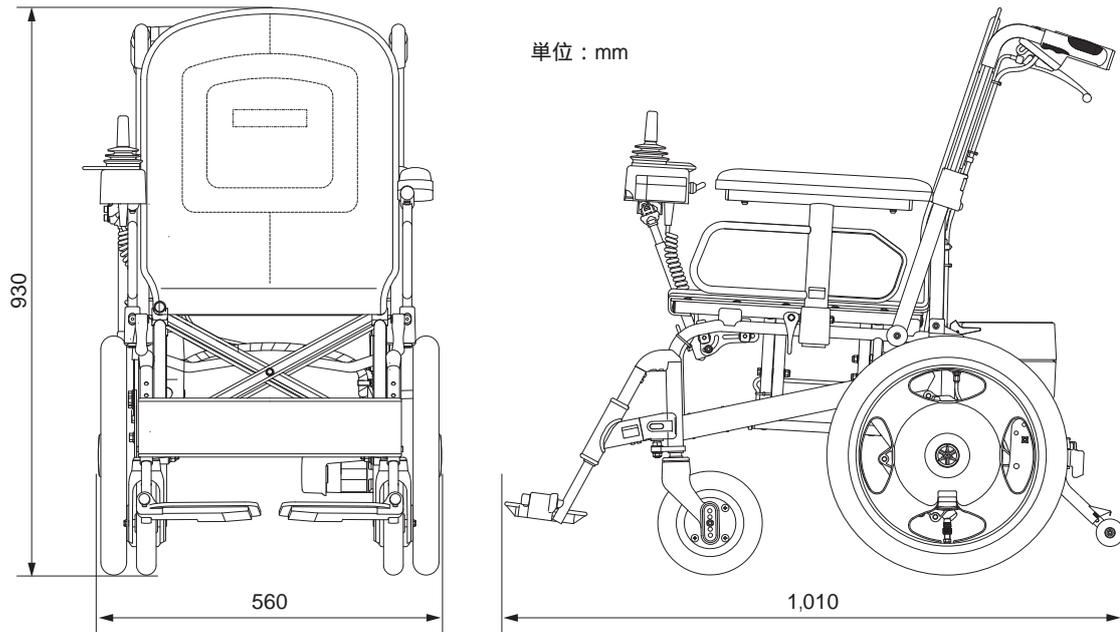
対 象	仕 様		
本体重量	22kg (バッテリー含まず)		
自走操作時性能	前 進	高速	4.5km/h
		低速	2.5km/h
	後 進	高速・低速共通	2.0km/h
介助操作時性能	前 進	5段階	2.0 ~ 4.5km/h
	後 進	5段階	1.0 ~ 2.0km/h
実用登坂角度	6°		
走行距離 (1回充電)	ヤマハパターン走行にて約10km *注		
モーター出力	24V 90W × 2 (30分定格出力)		
駆動方式	後輪直接駆動		
タイヤサイズ	16 × 1.75		

注) ヤマハパターン走行：新品充電済みバッテリー、気温25℃、直線平坦地連続走行

充電器、バッテリー

対 象	仕 様	
電源	AC100 ~ 240 V, 50/60 Hz	
定格出力	29 V, 2.6 A (充電時)	
使用バッテリー	JWC-2専用バッテリー ニッケル水素、24V × 6.7 Ah、20Aブレードヒューズ	
充電時間	急速充電	約2 ~ 3 時間
	リフレッシュ充電	約3 ~ 13 時間
使用周囲温度	0 ~ 40	

外観図



警告ラベル貼付け位置

警告

- ・手動車イスのブレーキ操作ができない方は、単独では絶対に走行しないでください。

注意

- ・取扱説明書をよく読んでから使用してください。
- ・携帯電話や無線通信機器等は、安全な場所に車を止め、電源スイッチを「切」にしてご使用ください。

警告

安全に使用していただくため、下記のことを必ずお守りください。

- ・電池の充電は、指定の専用充電器で行うこと。
- ・電池を使用しない時には必ず充電キャップを装着すること。
- ・電池の(+)、(-)端子を針金等の金属で接続しないこと。
- ・電池に強い衝撃を与えたり、分解や改造をしないこと。
- ・この電池を指定の用途以外のものに使用しないこと。
- ・電池を火や物のそばに入らず、取扱しないこと。
- ・電池のヒューズは、指定のものを使用すること。

Ni-MH

警告

坂道でクラッチレバ・を手動位置で使用しないでください。衝突、転倒の恐れ。

注意

駐車・保管は平坦な場所にしてください。クラッチレバ・は電動の位置にしておいてください。

注意

携帯電話や無線通信機器等は、安全な場所に車を止め電源スイッチを「切」にしてご使用下さい。

注意

取り扱い説明書をよく読んでから使用して下さい。

注意

この部品を持って車いすを持ち上げないでください。

警告

転倒防止バーを格納したままで、走行しないでください。

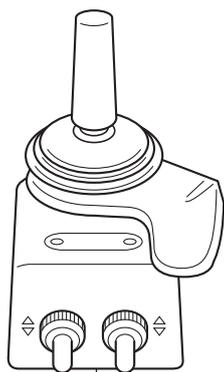
注意

取扱説明書を読んで、安全運転に心がけて下さい。下り坂は必ず前進・低速で注意して走行下さい。携帯電話や無線通信機器等は、安全な場所に車を止め、電源スイッチを「切」にしてご使用ください。

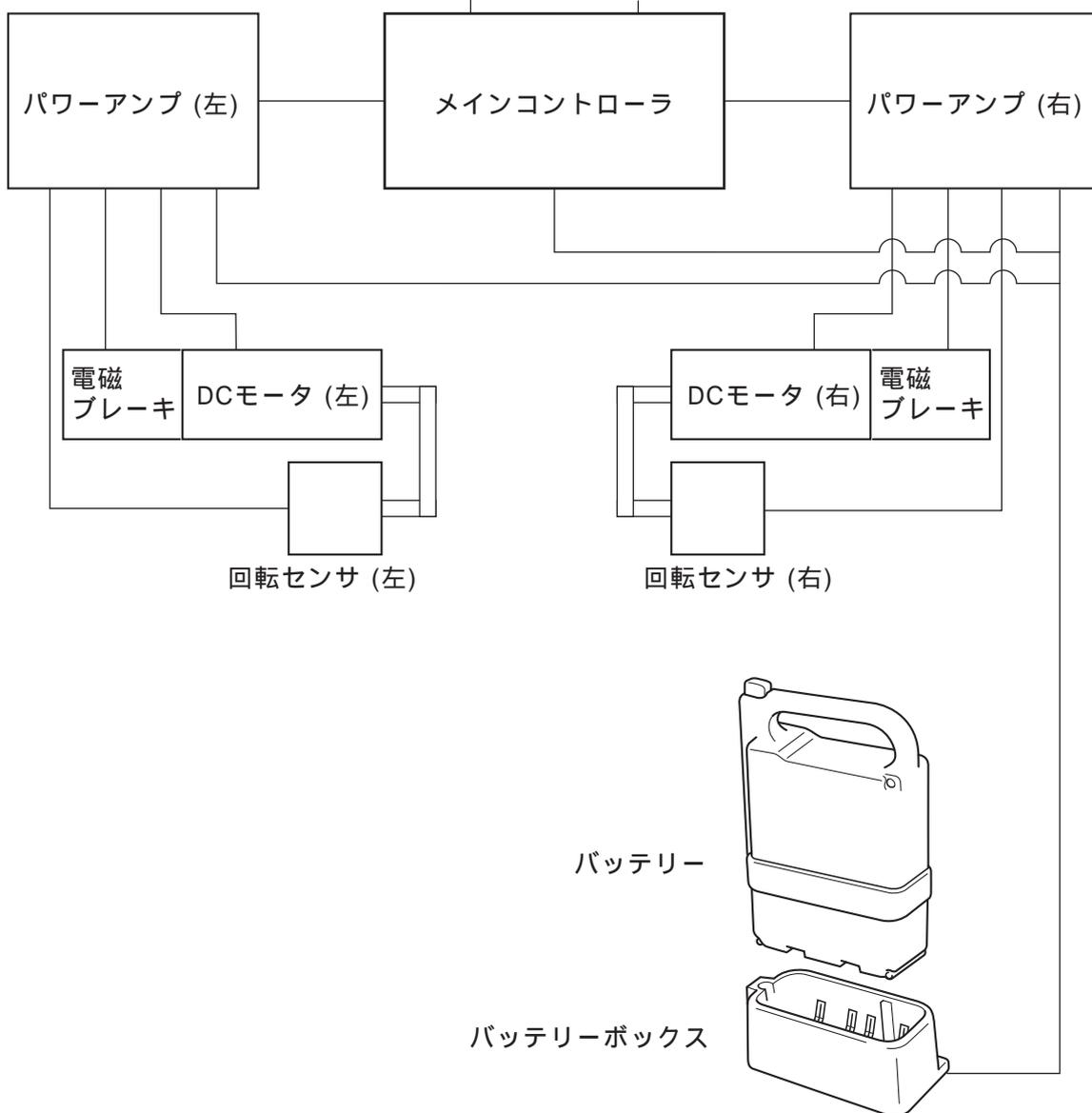
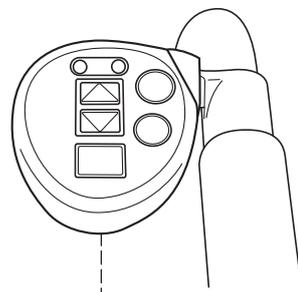
仕様諸元、その他

配線組み付け図

自走用操作部



介助用操作部 (オプション)



メモ

アフターサービス

お買い上げいただきました取扱店が、点検・修理をはじめサービスのご相談等、いつまでも親切にお受け致します。タウンイジョイをお求めになった取扱店にお気軽にお問い合わせください。

お買い求めの取り扱い店

・保証について

お買い上げいただきましたタウンイジョイを構成する純正パーツに、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き保証書に示す条件に従い、その部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。



取扱説明書

2004年4月発行

ヤマハ発動機 IM カンパニー

本書の無断複写複製(コピー)は、特定の場合を除き、
著作者・出版社の権利侵害になります。

X0B-28199-00



再生紙を使用しています。
200401-0.5×1 CR



IMカンパニー
〒435-0054 静岡県浜松市中区早出町882
TEL 053-460-6167(直通)
FAX 053-460-6145